

東京女子医科大学 八千代医療センター 春期インターンシップ体験者の感想



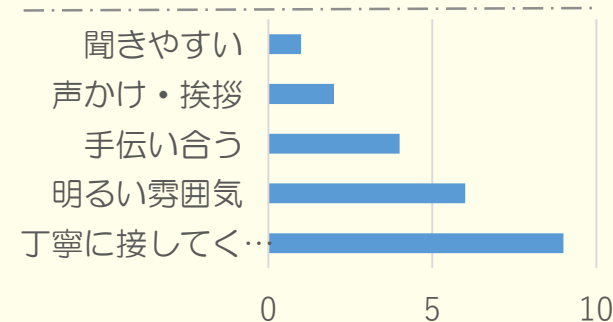
雰囲気に関する結果

職場の雰囲気を選択した人で雰囲気に
ついて記述された意見をまとめました。

- 1位 優しく丁寧に接してくれた9名
- 2位 病院・病棟全体が明るい雰囲気6名
- 3位 忙しい時に手伝い合う場面 4名

続いて、質問し合っている・スタッフ間の
声かけがこまめで優しい(各2名)挨拶
し合ってた・多職種にも聞きやすい(各1
名)が挙がりました。

雰囲気に関する結果



全体的な雰囲気や、
挨拶・コミュニケーションの
感じが印象的なようですね。

採用担当より



アンケートについて

2020年1月～3月3日の春期イン
ターンシップ(八千代)に参加した
31名の方のアンケートを集計しま
した。感想の一部は夏期インター
ンシップの内容も含まれています。

インターンシップで知りたいことを
選択式アンケートをとった結果をこ
のページでまとめます。

自由記述式で得られた各病棟での体
験・感想は2ページ以降にまとめま
すのでご覧ください。

インターンシップで 知りたいことの集計結果

- 1位 職場の雰囲気 30/31名中
- 2位 教育体制 26/31名中
- 3位 勤務体制 19/31名中

参加者の97%の方が雰囲気を
知りたいという結果です。
インターンシップに参加された方々
は、スタッフの学生への接し方や
挨拶し合っていること、また忙しい
時はスタッフ同士で助け合う雰囲気
を感じていたようです。

皆さんこんにちは

東京女子医科大学の採用担当です。

2021年卒の方を対象にしたインターンシッ
プ・病院見学会や合同就職説明会などが中止
となっている中で、皆さんが必要としている
情報を知るために何か発信できないかと考え
ました。

女子医大では、インターンシップ参加者に対
して開始前後にアンケートと感想を記入して
もらっています。それらを今回集計し、皆さ
んに発信することで、体験できなかったイン
ターンシップでの様子を少しでも想像しても
らえたらと考えています。

集計された感想は、個人の価値観・見たもの
によるものなので、これを読んでくださって
いる皆さん一人一人が同じように感じるかは
わかりませんが、一助となれば幸いです。

病棟編成について

総合周産期センター(母胎科・MFICU、NICU・GCU)、
小児センター(小児病棟・PICU)、
救命センター(ICU・病棟・ER)、
内科系病棟2つ、外科系病棟3つ、
臓器別の病棟は循環器系と消化器系病棟、
ユニット系はICU・CCU、
手術室があります。

各部署のインターンシップ感想をぜひご覧ください。

看護の様子

ひとりひとりの患者に対してとても丁寧に対応していたので、患者も安心できる環境であることがわかりました。

母乳育児の大変さを目の当たりにし、ここまで丁寧に指導して貰えるのは凄いと思いました。

妊婦それぞれの生活背景や抱えている悩みに関わる助産師をみて、授業では「個別性が大切」とよく言っているが、実際の現場をみたことで、それがどういう意味なのかがわかりました。

教育体制

健康な妊婦だけでなく、様々な疾患をもった妊婦さんとの関わりや主訴として聞くべきこと、それを聞く理由まで深く教えていただきました。この数時間で知識がとも増えました。また、胎児心拍をモニターでとることがどれだけ難しく、さらに疾患をもつ妊婦さんの胎児心拍をとることはとても難しいことを知りました。私もこの技術を身に着けたいです。お産の技術・授乳指導の技術・お母さんへのケアの技術や関わり方を参考にしたいです。これらを習得して、患者・家族に安心した入退院生活を過ごして貰えるよう指導・寄り添える看護師になりたいです。

とても優しく丁寧に病棟の説明や多い疾患、高度な医療について教えてくれました。助産師になれば、様々な症例を学び、経験できると思いました。

担当者に沢山教えてもらい勉強になりました。

自分の知識が不十分であることを実感しました。母親の不安や疑問を聞いて、正しい知識を分かりやすく説明できるようになりたいと感じました。担当の助産師は優しく丁寧に教えてくださりわかりやすかったです。

雰囲気・環境

スタッフが優しく丁寧に接してくれました。また千葉県の中にあるこの病院は必要性が高いと感じました。

産科は助産師のみの配属と知りとても心強いと思いました。

正常分娩とハイリスク分娩を両方みることができるこの環境に興味が湧きました。

出産時の助産師の対応や分娩の予測を仲間と話し合っている様子を見て、仕事に対してのイメージができました。

助産師が母親や新生児とどのように関わっているかや、医師や栄養士など他部門とどのようにコミュニケーションをとっているのかなど、チーム医療の中での助産師の役割を学びました。

産科・MFCUの参加して
なにかあったか？と感じたことは？

母体胎児科・新生児科の外来です。

分娩室です。
リラックスできる空間作りをしています



看護の様子

新生児ひとりひとりに合わせたケアを実施していると感じました。新生児の一番近くにいる看護師が、面会時間外のできごとや日々の哺乳量を母親に伝えることで、家族と一緒に児の成長を見守っていくという家族への関わりもとてもよかったです。

児と一緒に暮らすことができない家族に寄り添った看護(家族とのコミュニケーション・成長日記・バースデーカード・家族からの手紙や写真を書いている)を間近でみられました。そのような看護をすることで、家族は安心して児を預けられるのだらうと感じました。

面会時間外の出来事を
日記にして伝えています



教育体制

看護師が計画していた順番でケアを行うというよりは、児の状態に合わせてケアしていたのが印象的でした。

生まれてすぐの児は低出生体重で、手の平で支えられるくらい小さくて、でもしっかりと生きていて、命の尊さを感じることができました。この子がNICUで成長していって、一つ一つでできることが増えていくのを見ると、とても感動すると思いました。

2年目の看護師には先輩看護師がついてアドバイスしていたのをみて、新人のうちも安心して働けそうだと思いました。

師長・担当の看護師が非常に丁寧に説明してくれました。

担当の看護師が積極的に話をしてくれて、聞きたかったことを沢山きくことができました。

新人がベテラン看護師に
シャドーイングしています



雰囲気・環境

病棟全体の雰囲気が明るく、助けを必要としているスタッフがいたら手の空いているスタッフが積極的に手伝っていました。医師と看護師の距離が近く、気になることがあればすぐに聞くことができる環境であることがとても印象的でした。

小さな命を預かるという緊張感の中でも、丁寧にケアを行っている姿が印象的でした。

シャドウした看護師をみて、児に愛情をもって看護されているのだなと、ケア時も児への声かけや家族との関わりの方の大切さを感じました。

病棟全体が明るく穏やかな印象を受けました。

病棟全体の様子です
青いライトは黄疸治療の
ための光線療法です



な分イN
んかン
でっタ
すたー
かことン
?とシ
感ッ
じたプ
ことはU
の
参加
して



看護の様子

患児だけでなく、家族に対してもコミュニケーションをとることで悩みや不安を解決できるような積極的に行っている姿をみて信頼関係を築く大切さを学んだ。また自分もそれができよう看護師になりたいと思いました。

小児科における看護師の役割として、母親にも目を向けた関わり方を心がけていることを知ることができました。

ひとりひとりの特徴に合わせて看護をしていました。

屋外でリハビリする時に利用します
施設内に外の空気を感じられる場所があるのは自慢です



教育体制

カンファレンスにも参加でき、患児がより良く退院できるように話し合う姿がありました。

対応してくれた看護師も丁寧に対応していただき、リラックスしてインターンシップに参加することができました。

スタッフ間の雰囲気がとても良く、1年目看護師にも声をかけてわからないことがないかを確認している姿を沢山みられ、学びやすい職場だと思いました。

2年目なのにすごく頼もしくてテキパキ行動している姿をみることができました。

小児のリハビリ室です
遊びの中にリハビリを組み込んでいます



雰囲気・環境

とても忙しそうではあったが、病棟全体が温かい雰囲気を持っている場所だと感じました。看護師同士は協力し合っていたり、クラークさんも皆が挨拶し合ったり談笑しているのをみて、友人が「ここで働きたい」と言っていた理由がわかりました。

女子医大の本院にも参加したので、入院される疾患の特徴の違いを知ることができました。また看護師が優しく丁寧に教えてくれた。

雰囲気がとても明るく、積極的に医師とも関わっており壁を感じず話し合える点がよいと思いました。

患者や家族の方だけでなく、スタッフ間でも人に対して優しい声かけや相手のことを考えた対応をしていたところがとてもいいなと感じました。

病棟の中にある検査室です



新人がベテラン看護師にシャドーイングしています
患者訪問のために、訪問前に指導を受けている場面です



小児病棟のインターンシップに参加して
なんか楽しかったですか？
感じたことは？



看護の様子

(呼外・婦人科・血内)

多重業務の中でも患者ひとりひとりの立場になって考えて看護を実践していました。

(SCU・脳神経外科)

担当看護師は患者ひとりひとりに対して寄り添い、今後患者がどうなっているのかを考えていたのを見てとても勉強になりました。

患者との距離が近く、受け持ちでなくても状態を確認していたり、声かけているのを見て関係性の良さを感じました。

脳外は家族や地域との関わりも大きいということで、チーム医療の輪が大きく全体で患者を支えているのだと思いました。

(整形・泌尿器・皮膚科・眼科)

非常に忙しそうにしていたが、その中でも患者の話に耳を傾け、カンファレンスを行い、患者の意思を尊重したケアがされていることに感銘を受けました。その場面を見て、自分の目指す看護に近づけると感じました。患者への考え方も気づかされたことがありました。

教育体制

(呼外・婦人科・血内)

乳腺外科・婦人科に加えて形成外科や糖尿病の方などの混合病棟のため、それぞれの疾患について勉強することが必要だと感じました。また忙しい中でも看護師同士で情報共有や相談をしていたので疑問や自分の判断で迷った時にも聞きやすい雰囲気だと感じました。

(SCU・脳神経外科)

いい意味で壁がなく、看護師が困った時等は医師に相談やアドバイスを受けており、よい関係の中で学べると感じました。

ナースステーションです
施設全体で落ち着いた色
味になっています



雰囲気・環境

(呼外・婦人科・血内)

看護師同士の声かけや援助の補助などコミュニケーションが円滑であり、密に連携をとり協力し合うことで患者に安全・安楽な看護を提供できると思いました。チームメンバーで助け合って看護をしていることに魅力を感じました。病棟は明るく優しい雰囲気です、質問したり協力している場面をみて、自分が働くイメージができました。

(SCU・脳神経外科)

師長やスタッフがとても優しく、明るくアットホームな雰囲気だと感じました。看護師や他多職種とのコミュニケーションを沢山とっていると感じ、またケアや転入の時に担当だけでなく手が空いている人が集まって協力し合っているのが印象的でした。

廊下の棚にケアで使用する物品
を収納しています
患者さんが通りやすい廊下です



分イ（（（外科
かン整脳呼
っタ形神吸
たー外経器
ことン科外科
とシ・科
感ッ泌・・
じプ尿S婦
たに器CU人
こと参加・科
はして皮膚科
んで眼科
ですか？



雰囲気・環境

(循環器センター循外・循内)

入退院の入れ替わりが早く、実施するケアも多いためとても忙しそうだったが、効率よく回っていた。他の職種の方ともこまめに声かけを行っていて相談しやすい環境でした。看護師間のコミュニケーションも豊富で雰囲気が良く楽しかったです。

(消化器センター消外・消内)

病棟内のスタッフの連携や業務の優先順位を決めて動いている様子。患者に対する言葉掛けをみて、忙しい中でも円滑に、なるべく患者に忙しい様子を見せないように配慮していたり、スタッフ間で効率的に行えるようにお互い思いやりをもって動いていることがわかりました。

教育体制

(循環器センター循外・循内)

質問にも丁寧に答えてくれました。またケアもADLの低下予防であったり、褥瘡予防目的など根拠をもって実施しており、根拠は大事だと感じました。

な分イ（（外科
んかん消循環内科
でっター化環内科
すたー器器科の
かこン外外科の
？と、シ科科混
ッ・・合
感プ内内科病棟
じに科科病棟の
た参病病棟
こ加棟棟
とし
はて

教育体制

(ICU・CCU)

担当看護師が、今何をしているのかや、その根拠を教えながら関わってくれたので、疑問に思ったことはすぐにきくことができました。関心を深めながら体験することができました。

看護の様子

(ICU・CCU)

気管切開で話すことができない患者に対しても時間をかけて対応している姿をみて、私もそのような看護師になりたいと思いました。

雰囲気・環境

(ICU・CCU)

環境も整っていて、職員同士も助け合ったり声を掛け合っていました。仲が良さそうだったので魅力を感じました。忙しい中色々と教えて貰えました。

(救命ICU)

明るい雰囲気でチームで連携しながら機能していることがわかりました。患者の疾患・重症度は様々であり覚えることが多いが幅広い経験を積むことができる環境だと感じました。

(手術室)

スタッフが優しくとても親切に接してくれて、説明も丁寧でした。

な分イ救
んかん命
でっターU
すたーC・
かこンUC
？とシ・C
感ッ手
じプ術
たに室
こ参の
は加
て

集中治療室のベッドです
安全を高めるためコード類が
床にない設計になっています

救急外来の
初療室です。



看護の様子

(内科混合病棟)

患者ひとひとりに合わせた看護を提供しており、また家族に対しても疑問点を丁寧に説明しており、このような環境の中で自己の目指す看護師像に向けて日々努めていきたいと思いました。

(血内・化学療法緩和ケア科)

患者の痛みや不安、声にできない訴えも温かい言葉かけや関わりで患者の表情が穏やかになっていく姿を多くみられて勉強になりました。

看護師の皆さんがひとりひとりの患者にとってどうすることが最善であるかを患者の尊厳の尊重と安全の保障のバランスをとりしっかりと考えられていることが伝わってきました。終末期の患者も多い中で、個別性に向き合っているのだと感じ勉強になりました。



教育体制

(内科混合病棟)

勉強することや辛いこともあると思うが、その分やりがいがあり自分の成長にも繋がると思いました。

患者間違いがないようにバーコードで必ず患者の名前・青年月日の確認することを徹底していること、患者の安全を守ることはもちろん、スタッフの安全も守られていると思いました。患者さんを大切にすることは当たり前ですが、スタッフのことも大切にしている病院なんだなと思いました。

(血内・化学療法緩和ケア科)

認定看護師をはじめ技術・知識の向上に努めていること、看護のやりがいを教えてもらいました。



化学療法科は、八千代医療センターならではの地域連携が強い部署です。今、がん治療で化学療法をしながら在宅へ移行する方が多い中、安全に自宅に帰れる状況か、または帰るために何ができればよいのかについて、入退院支援室の担当看護師、ソーシャルワーカー、理学療法士、医師、病棟看護師と多職種でカンファレンスを行っています。

また当院は急性期病院ですので、在宅移行になった後も治療内容を変更していく必要がある方もいます。そのため退院前後の治療計画は重要で、地域の訪問看護ステーションとも連携を取り、疾患の管理と患者個々の生活を考えて支援していきます。

採用担当より

雰囲気・環境

(内科混合病棟)

看護師同士のやりとりや患者の様子から、とてもよい雰囲気の病棟だと感じました。

ケアが終わらない時には「大丈夫?」「ここに入るよ」とコミュニケーションをとりながら連携をしているところに感動しました。

医師・リハビリスタッフの方との距離も近くコミュニケーションが活発なところから、アットホームでお互いに活発に意見が言いやすい環境だと思いました。

(血内・化学療法緩和ケア科)

スタッフ同士の情報共有や「ありがとう」という言葉がよく聞かれて多職種への気配りも意識して仕事をしていると感じました。

スタッフが温かく迎え入れてくれて、連携をとって患者のケアを行っていました。

分イ(内
かン血神腎科
っタ液経臓混
たー内科内合
ことシ・科病
、ッ化糖呼棟
感プ学尿吸の
じに療病器
た参法内科
こ加緩和科
とはてケ・
ア科) 膠原
はなん病リ
ですか? ウマ
チ・

